

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ(東ユニット)		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果市町村受理日	令和4年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&ji_gyosyoCd=2392700049-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地も広く平屋建て。緑を多くとり入れ、各ユニットに中庭もある。スタッフと利用者どと緩やかなゆったりとした空間を過ごせるホームである。
 季節の行事に合わせた献立やレクリエーションに取り組み、コロナ禍で外出が減っても退屈せず毎日を送れるように取り組んでいる。
 医療法人が母体であり、看護師を配置し利用者の健康管理と医師との連携に努めており、安心してお過ごしいただけるよう体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「父の日」に女性陣から贈られたメッセージカードを手に持ち、パチリと写真に収まったはにかんだ笑顔が素敵です — 事業所通信「ふるかわ新聞」にはそんな温もりのある写真が沢山掲載されています。足湯は最初はイヤそうにする人もいましたが、今ではまったり、ゆったりとした様子で、なかにはうたた寝をしてしまう人もいて、そんな様子もカメラは捉えています。季節行事に沿ってクラフト作品や調理に取り組むほか、書道やフラワーアレンジメント、時には抹茶を点てたり、それでも「何かやることある?」「何でもやるよ」と頼もしい声が利用者から挙がり、職員が見守るなか洗濯たたみや掃除が日課に溶け込んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに飾って、いつでも見ることができるようになっている。今年目標である、入居者様一人一人のレクリエーションの充実や職員の目標をユニットキッチンや事務所に掲示意識するようにしている。新しく来た職員はユニット理念への理解が浅いかもかもしれない。	理念はレクリエーションやイベントなどを通じて事業所と交友のある地域の人にも知られていません。職員にとっても大変身近にあるものの、毎年理念に基づく目標を立てていて、実践に実るよう組織的に取り組んでいきます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で、以前行っていた地域の老人クラブとの交流は途絶えたままであるが、地域の方が畑のお花を持ってきてくださったり、散歩時に近隣の方との挨拶はあり、声をかけてくださる方もいる。回覧板にて地域の情報を得ている。	これまでやりとりのあった地域の皆さんとは疎遠となってしまっていますが、近隣からは季節の花が届き、キュウリや又キ菜などの野菜の差し入れもあります。忘れずに気にかけてくださり、事業所では感謝しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で控えており、今年度は活動できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での開催は行わず、書面開催をして、委員の方からFAXIにて意見をいただき運営に取り込んでいる。励ましの言葉をいただき、励みになっている。	運営推進会議は昨年の11月は参会できていますが、その後現在までは書面開催となっています。メンバーには返信シートを同封のうえ議事録を届けていることから、運営に役立つ意見を受け取ることができています。	事故報告書を添付していますが、議事録にヒヤリハットと事故の数を表記することも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新の申請代行などに伺うのみ。質問等はメールや電話で行える。市の担当者からは研修の案内などの情報もメールでいただける。	隣に立地することもあって地域包括支援センターには、日頃から気にかけてもらっています。津島市からは運営推進会議が参会できない場合の適切な方法について改めてアナウンスがあり、事業所でも正しています。	市が適正実施に熱心なようですので、「重要事項説明書に受審有無を掲載する」ことも、市と相談のうえ検討ください。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に一度行っている。身体拘束廃止のため勉強会を行い、そのまま引き続き委員会としているので、職員にも理解してもらい易くなった。不適切ケアチェックの集計や勉強会も職員が持ち回りでを行い、意識も高まっている。	四半期毎の委員会開催、研修2回、新採研修を欠かさず実施のうえ、記録に残しています。研修では「不適切ケアチェックリスト」も取り入れ、個々に自ら振り返る機会となり、また職場全体の状態把握にもつながり、有益な取組みとしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の勉強会にて、一部虐待防止法について説明を行った。身体拘束廃止にて不適切ケアチェックなどを行い、防止に努めている。新聞記事などで関心をもち、職員同士で話し合ったり、管理者へ伝え相談できている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度は、ご家族の要望もあり成年後見制度利用に向けての支援を行った。職員は制度があることは理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約は管理者にて家族に説明し行っている。入居後は不安や疑問に応じて家族の質問にその都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族に様子を伝えている。また新聞発行にて、ホームの様子を知っていただく。管理者からは電話で様子を報告したり、ご家族にお話をお聞きしているが、職員もできるだけ声をかけお話しするようにしている。	家族には何かあればショートメールや電話で速やかに伝達しています。また、「ふるかわ新聞」の定期発行とともに、絵手紙など温もりが伝わる便りを手厚くし、面会の機会が減った本人との関係が保たれるよう苦心しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案があれば管理者へ伝えている。不定期ではあるが、管理者にて個々に面談をして意見を求めることもある。	真面目で控えめな職員が多く、協議は活発とまではゆかないものの、ユニット長が声をかけて意見を引きだし、朝夕の申し送りで報連相を確かなものとしています。また「ふるかわ新聞」では職員の自己紹介コーナーを設け、メンバーシップを高めてもいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも見られるようにファイルになっている。法人として残業は行わない取り組みであり、基本的に行わないような勤務体制としている。有休も残らないように取ってもらう		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度に引き続き、2か月に1回勉強会も担当制にして行っている。ユニットごとに役割があり、それぞれが責任をもって取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム管理者同士の情報交換は行っているが、それ以外は特に取り組みはしていない。外部研修への参加も少なく、他との交流は減っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者からの情報とフェイスシートにて確認をして対応。日々の行動を記録し、申し送り等で情報共有している。初期はご本人様も不安になられ、職員にてこまめに声をかけ対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期はこまめにご家族に報告をし、また、写真にてどのように過ごされているかわかるようにしている。また面会も多くしていただくなどお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多様な方法を伝えている。入居についての相談時は入居費用だけでなく、津島市にある他のサービスについても情報を伝え選択していただくように努めている。入居後はご家族にこまめに連絡し、ご本人の情報収集にて理解に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	国云はできる限り制限せずに感染対策をしたうえで、面会していただけるように努力している。ご家族の面会時はできるだけゆとりとあっていただけるようにしている。職員は入居者に対して尊敬と感謝を忘れないように対応を心がけている。無理強いはいないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策をしたうえで面会をお願いしている。静かな環境でゆとり会っていただけるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お参りなど近い場所であれば、できるだけ付き添い外出できるように支援している。家族や親しい人へ絵手紙を出せるように支援している。可能な方は、家族と電話で話していただく。家族より元気な声が聞けて安心してますとの言葉をいただいた。職員にて住んでいた地域や仕事の話を聞くなどしている	編み物や数独、毎日の新聞や散歩のほか、入所後に大人の塗り絵が趣味となった人がいる一方で、見当識障害などが進み将棋や詩吟が無理となった人もいます。また誕生日祝いが家族から届く人もおり、事業所でも祝会を開催しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで交流の機会を持てるように声かけしている。利用者同士のトラブルが起きないように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	リビングで交流の機会が持てるように席の配置も考えている。コロナ禍での外出が減り、入居者同士の間人間関係が円滑に行くように支援する難しさも感じている。面会でできないときなど、ガラス越しに対面し元気な姿を見ていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室で一人で過ごす時間も大切であり、廊下のソファで一人でくつろぎ自由にしていただいている。ケアプランについても毎月モニタリングを行い振り返りと確認をしている。	「ソファに座る利用者の隣でお話を聴くのも仕事ですよ」との指導はあっても、立ち働くことを優先する職員も未だいますが、総じて傾聴が図られています。また一年の抱負を書道でしたためたり、七夕の短冊など、思いを形にする機会も大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家具や大切にしていたものを持ってきていただく、それについての話をしたり、写真を持ってきていただき飾る。家族から聞き取ったアセスメント表なども確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況により起床時間や食事時間をずらすなど対応することもある。表情や動作など様子を見ながら対応を決めたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い職員同士で意見交換、本人家族の意向も取り入れるように努めている。モニタリングは毎月行う。	介護計画は「役割をもってもらう」ことに配慮しています。アセスメントには「担当者からみて最優先事項や本人にとって一番大切なこと、一番支援すること～」と、一番との言葉が踊り、事業所の利用者を中心とするケアが視えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録を読み返し情報収集することで職員間で共有している。申し送りノートの活用もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の回数や面会の時間帯、外泊などはご家族の要望に応じるように努力している。好きな食べ物の差し入れなどは衛生上お預かりするが、毎日お渡しし召し上がっていただくなど工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用機会は減っている。花を届けてくれる方がいて、それを楽しみに花を活ける入居者がいるなど小さなことを継続している。2か月に一度の美容院は、感染対策をして継続してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、年に1回の健康診断(市の健診活用)をはじめ体調に合わせた受診など提携病院をはじめ、それぞれのかかりつけ医(内科、眼科、耳鼻科なども)を継続していただけるよう管理者(看護師)が付き添い支援している。	母体病院が協力医として常の健康管理、早期発見に安心な体制があります。特にコロナの陽性者がでたときは検査も速やかでその日の内にガウンやマスクが届き、物資供給とともに助言や労いの言葉にも助けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気になることがあれば看護師に相談している。夜間、休日も電話での対応もしてもらえる。必要に応じて状態観察し医療機関に連絡を取っている。 介護職員は日ごろの観察力にて小さな変化をとらえすぐに看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は家族とともに管理者(看護師)が付き添い、病院側に情報を伝える。また情報提供書を送り、入院中や退院が円滑に進むよう支援する。退院時も病院に出向き病状説明、退院後の注意点など確認している。病院によって担当相談員や看護師など連携職員は様々。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者にて入居前に説明。病状変化時などに家族に希望の確認をしている。家族から聞き取った希望はユニット長を中心に職員に伝え共有している。	重要事項説明書とともに重度化に関する指針を備え、終末期における事業所の方針を契約時に家族に説明しています。法人内には介護老人保健施設もあり、医療が必要な場合にはスムーズに移設できるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急講習会もコロナ禍にて参加できていない。ホーム内での持ち回りの勉強会にて実施しているのみ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練は年2回実施。その時に地震での避難のポイントを話した(職員教育)。今年度は5月に近くの避難所(東小学校)まで職員2名と入居者2名の組み合わせで歩き、場所や時間の確認、危険箇所を確認を全員行い、水害時などの意見を出し合いまとめた。その後ハザードマップを使って勉強会も実施。	9月には出火からの避難で消火器の操作方法を体験しており、年2回の法定訓練を遵守しています。また避難場所の小学校を知らない職員がいたため、危険箇所についてのレポートと併せ、職員と利用者で探索するチャレンジもありました。	ハザードマップにはありませんが近隣で冠水するエリアがある為、一度水害について机上訓練(何に注意すべきかの見直し)をおこなうことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄についてなど人前で大きな声で言わないようにしている。言葉遣いに気をつけている。何か手伝っていただいたときは感謝の言葉を伝えている。勤務に入るときに毎日お一人ずつ声をかけ挨拶している。	以前には此処を勤務先と思っている人もいて、一人ひとりの特性を尊重しつつリズムと言葉を合わせて対応しています。また「部屋番号では言いたくない(失礼ではないかとの懸念)」として、申し送りは小さい声でおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ希望をお聞きし、入浴なども本人に確認を取ってからにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日どのように過ごしたいか確認し、テレビや入浴、その時の過ごし方(居室、廊下のソファ、リビング)などご本人の意思を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝ぐせ直しスプレーを使い髪を整える。男性のひげぞり、身だしなみを整えていただく。季節に合わせた服装ができるように衣類の整理を行う。朝選んでいただくなどする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望をお聞きしメニュー作成時に取り入れる。季節の食材を取り入れ、行事食メニューを作成。今日のメニューを入居者に書いていただいたり、食器ふきなどお願いしている。	刻みが半分以上となってはいますが、食事前の嚥下体操やお茶を習慣として円滑な飲み込みに気遣っています。恵方巻では腕を奮ってもらい、セレクトランチとしてサンドウッチとちらし寿司を選んでもらった日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べにくいものをその方の状況に合わせて刻むなどしている。嫌いなもの時は代替の食材を準備。水分をこまめに取っていただく。夜間もお茶を準備しお渡りする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯ブラシと義歯洗浄。口腔ケア用品の消毒。歯磨きを拒否された時は、時間をずらして行うなどする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、時間ごとに誘導する方や行動や様子を見て誘導する方など様々。	平均介護度は2.8で重度化に向かいつつある状況ですが、ベッド上の交換は1名に留めています。本人の理解があって立位が保てるなら2人介助でも対応したいとしてはいますが、職員の腰痛対策との兼ね合いも含み調整しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、乳製品、果物など多くとっていただく。飲みやすいものや希望のもので、水分摂取量を増やす工夫をしている。外出できないときもホーム内で歩くなど運動していただく。内服薬の調整もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴嫌いな方や理解ができない方などには、時間を変えたり、職員を交代するなど気分を変えて入浴していただけるように工夫する。	毎日から1日おきの入浴となっておりますが、法定の週2回を遂行する事業所が大半なことから、はるかに入浴日が高く設定されています。またお湯も一人ひとり入れ替えるとともに足浴も励行しており、気持ちよさと保清を担保しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くない方を無理に居室で寝ていただくとはせずに、リビングで過ごしていただいたり、飲み物を提供する。必要に応じて眠剤の処方されている方もいる。昼間に布団を干したり、清潔にして寝具を整える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテにある薬情をみて理解するようにしている。便秘薬などは対応を確認している。拒否があった時もその都度看護師に確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、パズル、食器ふき、掃除などそれぞれの得意なことをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所への散歩には出かけているが、買い物や屋内へのお出かけは控えている。	コロナ過の影響で外出支援は散歩のみですが、お花の水やりをはじめ外気浴も楽しんでいます。「お菓子レク」「金魚すくい」「西瓜割り」「履き物とばし」と、運動に近い活動があり、たたむ物のとりあいになるほど洗濯物たたみも盛んです。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける機会はなくなり、お金を持ち使うことはなくなってしまった。お一人散歩時に自販機で好きな飲み物を買っていただくことがあるのみ。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙に返事を出すお手伝いをしたり、ご家族に季節ごとに絵手紙を出す支援をしている。また希望時には電話をかけお話ししていただく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開け換気している。季節の作品を飾る、センサーの音などで混乱しないように音量を調節する、時間によってはカーテンをしまふしくないようにするなど配慮している。	換気と消毒に一層努める共用空間には、風鈴や藤棚などのペーパークラフトが彩りを添え、時には西瓜割り大会の会場となったり、甘い香りで充満する「ふるかわ喫茶」に変貌する事もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不穏になった方がいるときはトラブルにならないように職員が間に入る。仲の悪い方同士が近く席にならないように配慮する。廊下のソファで一人でくつろいで新聞を読む方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や大切なものを持ってきていただく。掃除や衣類、持ち物の整理など行い、気持ちよく過ごしていただけるように配慮している。	面会頻度は減っていても会えたら一緒に写真を撮ることを続けています。家族にも渡すほか居室にも置き、職員が「きれいに撮れましたね」など声かけをすることで回想にも実っています。また自室に仲間を招き、ソファに並んで快談する姿もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にセンサーやコールを置き、安全に過ごしていただけるようにしている。浴室は使用時以外は施錠している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ(西ユニット)		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果市町村受理日	令和4年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2392700049-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地も広く平屋建て。緑を多くとり入れ、各ユニットに中庭もある。スタッフと利用者どと緩やかなゆったりとした空間を過ごせるホームである。
 季節の行事に合わせた献立やレクリエーションに取り組み、コロナ禍で外出が減っても退屈せず毎日を送れるように取り組んでいる。
 医療法人が母体であり、看護師を配置し利用者の健康管理と医師との連携に努めており、安心してお過ごしいただけるよう体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「父の日」に女性陣から贈られたメッセージカードを手に持ち、パチリと写真に収まったはにかんだ笑顔が素敵です — 事業所通信「ふるかわ新聞」にはそんな温もりのある写真が沢山掲載されています。足湯は最初はイヤそうにする人もいましたが、今ではまったり、ゆったりとした様子で、なかにはうたた寝をしてしまう人もいて、そんな様子もカメラは捉えています。時節行事に沿ってクラフト作品や調理に取組むほか、書道やフラワーアレンジメント、時には抹茶を点てたり、それでも「何かやることある?」「何でもやるよ」と頼もしい声が利用者から挙がり、職員が見守るなか洗濯たたみや掃除が日課に溶け込んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに飾って、いつでも見ることができるようになっている。今年目標である、入居者様一人一人のレクリエーションの充実や職員の目標をユニットキッチンや事務所に掲示し意識するようになっている。新しく来た職員はユニット理念への理解が浅いかもしい		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、以前行っていた地域の老人クラブとの交流は途絶えたままであるが、地域の方が畑のお花を持ってきてくださったり、散歩時に近隣の方との挨拶はあり、声をかけてくださる方もいる。回覧板にて地域の情報を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で控えており、今年度は活動できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での開催は行わず、書面開催をして、委員の方からFAXにて意見をいただき運営に取り込んでいる。励ましの言葉をいただき、励みになっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新の申請代行などに伺うのみ。質問等はメールや電話で行える。市の担当者からは研修の案内などの情報もメールでいただける。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に一度行っている。身体拘束廃止のための勉強会を行い、そのまま引き続き委員会としているので、職員にも理解してもらい易くなった。不適切ケアチェックの集計や勉強会も職員が持ち回りで行い、意識も高まっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の勉強会にて、一部虐待防止法について説明を行った。身体拘束廃止にて不適切ケアチェックなど行い、防止に努めている。新聞記事などで関心をもち、職員同士で話し合ったり、管理者へ伝え相談できている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度は、ご家族の要望もあり成年後見制度利用に向けての支援を行った。職員は制度があることは理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約は管理者にて家族に説明し行っている。入居後は不安や疑問に応じて家族の質問にその都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族に様子を伝えている。また新聞発行にて、ホームの様子を知っていただく。管理者からは電話で様子を報告したり、ご家族にお話をお聞きしているが、職員もできるだけ声をかけお話しするようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案があれば管理者へ伝えている。不定期ではあるが、管理者にて個々に面談をして意見を求めることもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも見られるようにファイルになっている。法人として残業は行わない取り組みであり、基本的に行わないような勤務体制としている。有休も残らないように取ってもらう		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度に引き続き、2か月に1回勉強会も担当制にして行っている。ユニットごとに役割があり、それぞれが責任をもって取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム管理者同士の情報交換は行っているが、それ以外は特に取り組みはしていない。外部研修への参加も少なく、他との交流は減っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者からの情報とフェイスシートにて確認をして対応。日々の行動を記録し、申し送り等で情報共有している。初期はご本人様も不安になられ、職員にてこまめに声をかけ対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期はこまめにご家族に報告をし、また、写真にてどのように過ごされているかわかるようにしている。また面会も多くしていただくなどお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多様な方法を伝えている。入居についての相談時は入居費用だけでなく、津島市にある他のサービスについても情報を伝え選択していただくように努めている。入居後はご家族にこまめに連絡し、ご本人の情報収集にて理解に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	国云はできる限り制限せずに感染対策をしたうえで、面会していただけるように努力している。ご家族の面会時はできるだけゆっくりとあっていただけるようにしている。職員は入居者に対して尊敬と感謝を忘れないように対応を心がけている。無理強いほしないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策をしたうえで面会をお願いしている。静かな環境でゆっくり会っていただけるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りなど近い場所であれば、できるだけ付き添い外出できるように支援している。家族や親しい人へ絵手紙を出せるように支援している。可能な方は、家族と電話で話していただく。家族より元気な声が聞けて安心しますとの言葉をいただいた。職員にて住んでいた地域や仕事の話の話を聞くなどしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで交流の機会を持てるように声かけしている。利用者同士のトラブルが起きないように配慮している。暴言や暴力行為になりそうなときはすぐに職員が間に入る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	リビングで交流の機会が持てるように席の配置も考えている。コロナ禍での外出が減り、入居者同士の間関係が円滑に行くように支援する難しさも感じている。面会できないときなど、ガラス越しに直面し元気な姿を見ていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室で一人で過ごす時間も大切であり、廊下のソファで一人でくつろぎ自由にしていただいている。ケアプランについても毎月モニタリングを行い振り返りと確認をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家具や大切にしていたものを持ってきていただく、それについての話をしたり、写真を持ってきていただき飾る。家族から聞き取ったアセスメント表なども確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況により起床時間や食事時間をずらすなど対応することもある。表情や動作など様子を見ながら対応を決めたりしている。スタッフの仕事が気になって仕方がない方には一緒に手伝っていただくが、疲れすぎないように配慮する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い職員同士で意見交換、本人家族の意向も取り入れるように努めている。モニタリングは毎月行う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録を読み返し情報収集することで職員間で共有している。申し送りノートの活用もしている。カルテには本人がいった言葉を記入し、職員がどう対応したか書くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の回数や面会の時間帯、外泊などはご家族の要望に応じるように努力している。好きな食べ物の差し入れなどは衛生上お預かりするが、毎日お渡しし召し上がっていただくなど工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用機会は減っている。花を届けてくれる方がいて、それを楽しみに花を活ける入居者がいるなど小さなことを継続している。2か月に一度の美容院は、感染対策をして継続してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診、年に1回の健康診断(市の健診活用)をはじめ体調に合わせた受診など提携病院をはじめ、それぞれのかかりつけ医(内科、眼科、耳鼻科なども)を継続していただけるよう管理者(看護師)が付き添い支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気になることがあれば看護師に相談している。夜間、休日も電話での対応もしてもらえる。必要に応じて状態観察し医療機関に連絡を取っている。 介護職員は日ごろの観察力にて小さな変化をとらえすぐに看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は家族とともに管理者(看護師)が付き添い、病院側に情報を伝える。また情報提供書を送り、入院中や退院が円滑に進むよう支援する。退院時も病院に出向き病状説明、退院後の注意点など確認している。病院によって担当相談員や看護師など連携職員は様々。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者にて入居前に説明。病状変化時に家族に希望の確認をしている。家族から聞き取った希望はユニット長を中心に職員に伝え共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急講習会もコロナ禍にて参加できていない。ホーム内での持ち回りの勉強会にて実施しているのみ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練は年2回実施。その時に地震での避難のポイントを話した(職員教育)。今年度は5月に近くの避難所(東小学校)まで職員2名と入居者2名の組み合わせで歩き、場所や時間の確認、危険個所の確認を全員行い、水害時などの意見を出し合いまとめた。その後ハザードマップを使って勉強会も実施。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄についてなど人前で大きな声で言わないようにしている。言葉遣いに気をつけている。何か手伝っていただいたときは感謝の言葉を伝えている。勤務に入るときに毎日お一人ずつ声をかけ挨拶している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ希望をお聞きし、入浴などもご本人に確認を取ってからにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日どのように過ごしたいか確認し、テレビや入浴、その時の過ごし方(居室、廊下のソファ、リビング)などご本人の意思を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝ぐせ直しスプレーを使い髪を整える。紙を結ぶなど身だしなみを整えていただく。季節に合わせた服装ができるように衣類の整理を行う。朝選んでいただくなどする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや希望をお聞きしメニュー作成時に取り入れる。季節の食材を取り入れ、行事食メニューを作成。今日のメニューを入居者に書いていただいたり、食器ふきなどお願いしている。好きなもの(パン)を食材発注したりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べにくいものをその方の状況に合わせて刻むなどしている。嫌いなもの時は代替の食材を準備。水分をこまめに取っていただく。夜間もお茶を準備しお渡しする。とろみをつける方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯ブラシと義歯洗浄。口腔ケア用品の消毒。歯磨きを拒否された時は、時間をずらして行うなどする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、時間ごとに誘導する方や行動や様子を見て誘導する方など様々。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、乳製品、果物など多くとっていただく。飲みやすいものや希望のもので、水分摂取量を増やす工夫をしている。外出できないときもホーム内で歩くなど運動していただく。内服薬の調整もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴嫌いな方や理解ができない方などには、時間を変えたり、職員を交代するなど気分を変えて入浴していただけるように工夫する。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くない方を無理に居室で寝ていただくとはせずに、リビングで過ごしていただいたり、飲み物を提供する。必要に応じて眠剤の処方されている方もいる。昼間に布団を干したり、清潔にして寝具を整える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテにある薬情をみて理解するようにしている。便秘薬などは対応を確認している。拒否があった時もその都度看護師に確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、パズル、食器ふき、掃除などそれぞれの得意なことをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩には出かけているが、買い物や屋内へのお出かけは控えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける機会はなくなり、お金を持ち使うことはなくなってしまった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙に返事を出すお手伝いをしたり、ご家族に季節ごとに絵手紙を出す支援をしている。また希望時には電話をかけお話ししていただく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開け換気している。季節の作品を飾る、センサーの音などで混乱しないように音量を調節する、時間によってはカーテンをしまふしくないようにするなど配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不穏になった方がいるときはトラブルにならないように職員が間に入る。仲の悪い方同士が近く席にならないように配慮する。廊下のソファで仲の良い方同士はなしをする姿も見かける。居室の鍵を持っている方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や大切なものを持ってきていただく。掃除や衣類、持ち物の整理など行い、気持ちよく過ごしていただけるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にセンサーやコールを置き、安全に過ごしていただけるようにしている。浴室、倉庫、洗濯室は使用時以外は施錠している。調理器具があり、キッチンにはスタッフがいないときは危険なため施錠して、		